

## 第2講座『皮膚の痒み、肌荒れ』（高い熱が出る病気は取り上げません）



問1.【受診勧奨】受診勧奨が適当な症状には○を記入して下さい。

注意！：診断はできません。受診勧奨の際、思い当たる病名などを口に出さないように注意しましょう。

(1) 受診を勧めるべき生命やQOLの低下に関わる緊急性の高い重大な症状ではないか？

- ①発疹はないが、体が痒い。皮膚や白眼の部分が黄色くなっている。尿の色も濃くて泡立つ。
- ②尿量が減って浮腫みっぽい。発疹はないが全身痒く、だるさがあり、気持ちも悪い。

(2) その他、受診を勧めるべき症状ではないか？

- ①足首の上に色素沈着がみられたがガサガサして痒くなってきた。下肢静脈瘤がある。
- ②胴体片側の皮膚に、ピリピリ感と痒みがあらわれ、それが痛みはじめたと思ったら、今度は赤くなって水疱がプツプツと…。

③痒い赤～紫の複数のプツプツ（丘疹）ができ、融合して鱗屑を伴う扁平な台地状（苔癬）になっている。皮膚を搔くと新たにできる※。口の中の頬の粘膜が白くただれができています。

※引っかくなど外力が加わったところに同様の発疹ができる現象をケブネル現象と言い、尋常性乾癬でもみられる。

こすれやすい肘や膝、尻、頭などから発疹が出てきたり、あるいは発疹がひどい傾向がある。

④主にこすれ易い所の皮膚が赤くなって盛り上り、雲母状銀白色になってはがれ落ちる。

⑤あちこち鳥肌のようになって痒くガサガサ。顔は額や目のまわりが赤い。

⑥手などが増殖した黄白色の角質に覆われ、剥がれ落ちたり亀裂を生じたりしている。(→)

⑦山から戻ったら首がムズムズする。鏡で見たら黒いイボみたいなものが。(→)

⑧湿疹と思い、湿疹の薬を塗っていたがよくなりえずに少しずつ広がってきた。



国立感染症研究所 H.P.  
提供  
広島県 保健環境センター



問2.【セルフケアでも対応できる皮膚の痒み、肌荒れ】（ ）に当てはまる製剤を下欄から選んで下さい。

- ・湿疹は、紅斑、丘疹、水疱、痂皮、鱗屑など多彩な症状が混在し、痒みを伴う非伝染性の皮膚疾患の総称。そのうち、接触性皮膚炎＝かぶれは、刺激となるものに直接接触したことで起きる。( ① ) の塗布と抗ヒスタミン作用のある内服薬が有効。
- ・蚊などによる軽い虫刺されには抗ヒスタミン剤でよいが、原因がシラミで体毛に膠着した卵を発見した場合には ( ② ) によりシラミを排除する必要がある。
- ・乾燥肌の痒みは、まず ( ③ ) でバリア機能を高め、眠れない場合は抗ヒスタミン剤の内服。
- ・蕁麻疹は紅斑・膨疹・痒みを生じ、個々の皮疹は24時間以内に出没。I型アレルギーの他、物理的・化学的・薬剤、運動、体温上昇等が誘因になりうる。原因・悪化因子を除去・回避し、( ④ ) を内服。
- ・たむしは、境界鮮明に丘疹が環状に連なる。痒く鱗屑や痂皮を伴い、中心部は治癒傾向。( ⑤ ) を用いる。
- ・伝染性膿痂疹（とびひ）のうちの水疱性膿痂疹は黄色ブドウ球菌が原因。かき壊し⇒小水疱⇒びらん、飛び火する。範囲が限局していれば ( ⑥ ) を使用し、広範囲に広がった場合には内服薬も必要なので、受診勧奨。
- ・霜焼け（凍瘡）は末梢部位が寒さで循環障害を起し赤く腫れて痒くなるので、( ⑦ ) としての働きが要る。



皮脂欠乏性湿疹

- A. 保湿剤 B. 抗真菌剤 C. ステロイド性抗炎症剤 D. 抗菌剤 E. 抗ヒスタミン剤 F. 血行促進剤 G. 殺虫剤

問3.【一般用医薬品の使い分け】

(1) 消炎又は鎮痒成分の特徴に対応する成分群を下欄から選んで下さい。(抗ヒ成分＝抗ヒスタミン成分)

- ①皮膚の局所に限局している虫刺されやアレルギー性皮膚疾患に有効な抗ヒ成分。内用では中枢抑制作用が強い。
- ②吸収されると速やかに代謝されて活性を失うアンテドラッグのステロイド性抗炎症成分。
- ③局所刺激作用を減弱させた非ステロイド性抗炎症成分。広範囲や長期使用が可能。
- ④抗アレルギー作用を持つ内用抗ヒ成分。遅効性で有効率もやや低いが、抗コリン作用、中枢抑制作用は非常に弱い。
- ⑤抗アレルギー作用を持つ内用抗ヒ成分。やや遅効性だが有効性は高く持続性で、抗コリン作用の心配（排尿困難や緑内障の人への注意等）はなく、中枢抑制作用は非常に弱い。

- A. プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル, ヒドロコルチゾン酪酸エステル B. ウフェナマート  
C. アゼラスチン塩酸塩 D. メキタジン E. ジフェンヒドラミン塩酸塩 F. クロルフェニラミンマレイン酸塩

転載を禁ず

(2) 次の「皮膚炎」「かゆみ」等に関わる効能・効果を持つ、承認基準に基づく漢方製剤を下欄から選びなさい。

- ①体力中等度で、皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの次の諸症：月経不順、月経困難、血の道症、更年期障害、神経症、湿疹・皮膚炎
- ②体力中等度以下で、疲れやすく尿量減少又は多尿で、ときに手足のほてり、口渇があるものの次の諸症：排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ、かゆみ、夜尿症、しびれ
- ③体力中等度以上の人の皮膚疾患で、かゆみが強くて分泌物が多く、ときに局所の熱感があるものの次の諸症：湿疹・皮膚炎、じんましん、水虫、あせも
- ④体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの次の諸症：鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎
- ⑤体力中等度以下で、冷え症で、皮膚が乾燥するものの次の諸症：湿疹・皮膚炎(分泌物の少ないもの)、かゆみ

A. <small>うんけいとう</small> 温経湯	B. <small>うんせいいん</small> 温清飲	C. <small>おうれんげどくとう</small> 黄連解毒湯	D. <small>けいしぶくりょうがんりょうかよくいじん</small> 桂枝茯苓丸料加薏苡仁	E. <small>しょうふうさん</small> 消風散	F. <small>とうきいんし</small> 当帰飲子
G. <small>びゃっことう</small> 白虎湯	H. <small>ろくみがん ろくみじおうがん</small> 六味丸(六味地黄丸)				

問4. 【患者情報確認・生活スタイル】 一般用医薬品の鎮痒・消炎、しもやけ・あかぎれ、保湿成分名のうち、使用上の注意に照らして最も適当なものを選んで下さい。

・鎮痒消炎薬に ( ① ) が配合されている場合、水痘、みずむし・たむし又は化膿している患部に使用してはならない。また、使用上の注意に記載はないが、糖尿病の人も、かきこわして細菌感染の心配がある場合には受診勧奨が望ましい。全身的な副作用を避けるため長期連用してはならないが、患部が広範囲の人も要注意。1日2～3回、3～4日で切り上げられないなら受診してもらう。

・出血を助長するおそれがあるので、出血しやすい人や血が止まりにくい人は、血液凝固抑制作用のある ( ② ) や ( ③ ) を使用することはできない。

・保湿成分の ( ④ ) は、「乳幼児」への使用について相談事項になっている製品や用法に関する注意に「小児に使用させないこと」と記載された製品もある。皮膚の弱い乳幼児では、慎重に使用する必要がある。

・ ( ⑤ ) は、強い刺激臭があり、知覚神経に麻痺を起こさせる働きやギ酸を中和する効果があるが、蟻以外の虫刺されに対する効果を疑問視する意見が多い。

虫刺されは一般に、異種タンパクが注入されることによる中毒やアレルギー反応であることから、程度により ( ⑥ ) やステロイド性抗炎症成分を使うのが適当。

・抗アレルギー作用を有する ( ⑦ ) は、服用時の飲酒、服用後の乗物の運転及び授乳等を避けなければならない他、妊娠中は使用することができないが、排尿困難の人や緑内障の人に対する注意はない※。

※：バイオメディックス製造販売製品は例外。使用上の注意記載事項に関する通知の「アレルギー用薬」を参照し、「抗ヒスタミン剤を含有する場合」に従って記載したとのこと。スイッチOTC化された当初の製品をはじめ他社製品に記載はない。

A. 抗ヒスタミン成分	B. ステロイド性抗炎症成分	C. ポリエチレンスルホン酸ナトリウム
D. 尿素	E. アンモニア水	F. ヘパリン類似物質
G. アゼラスチン塩酸塩		

問5. 【アドバイス】 次の文章が正しいものには○を、誤っているものには×を、解答欄に記入して下さい。ただし、「※」の説明部分は問題の範囲ではありません。

乾燥肌のスキンケアと虫に刺されたときのために・・・

- ①乾燥肌の場合、入浴時には石鹸を泡立てて手のひらで優しく洗い、入浴後すぐにローションやクリームで皮膚を保護しましょう。
- ②香辛料の効いた辛い食べ物やお酒は血液の循環をよくするので、お肌が痒い時には痒みを増します。
- ③尿素有保湿作用は、高濃度の方が効果が高いので、10%より20%の製剤をおすすめします。
- ④ハチに刺されたら、とりあえずアンモニアの代用でおしっこを付けると、ひどくならず済みます。
- ⑤ステロイド剤は、擦り込まずに使い、出口径5mmのチューブの軟膏やクリームなら、人差し指の先から第一関節まで出した量(1FTU)※で、成人の手の平2枚分の面積に十分使えます。

※フィンガー・チップ・ユニット (FTU) : 1FTUは男性で約0.5g。塗り薬一般の使用量の目安になる。



# 令和6年度 登録販売者生涯学習研修確認テスト A-第3講座



## 問1.【自律神経について】下欄から適語を選びなさい

- (1) 自律神経系は ( ① ) に位置付けられ、闘争や恐怖等緊張状態の時に優位に働く ( ② ) と食事や休息等の安息状態の時に優位に働く ( ③ ) がバランスを取りながら、不随意に身体の器官を調節している。
- (2) 闘争や恐怖等緊張状態では、心機能亢進、末梢血管収縮、血糖上昇、消化管運動低下、気管支拡張、排尿抑制、瞳孔拡大、( ④ ) が起きる。これは、神経伝達物質が ( ⑤ ) 受容体に作用することによる。ただし、(④)を司る受容体はコリン受容体である。
- (3) 食事や休息等の安息状態では、心機能抑制、末梢血管拡張、血糖降下、消化管運動亢進、気管支収縮、排尿促進、瞳孔収縮、( ⑥ ) が起きる。これは、神経伝達物質が ( ⑦ ) 受容体に作用することによる。

- A. 中枢神経系 B. 末梢神経系 C. 知覚神経系 D. 交感神経系 E. 副交感神経系 F. アドレナリン  
G. コリン H. アルドステロン I. ドパミン J. 腺分泌亢進 (唾液・胃液・鼻汁など) K. 発汗亢進

## 問2.【自律神経に働く薬と使用上の注意】下欄から適語を選びなさい

- ( ① ) 的副作用は、発症予測が可能な場合が多いため、服用 (使用) 前の注意として重要である。自律神経系に作用する成分を含有する OTC 医薬品の「使用上の注意」には、(①)が数多く反映されている。
- (1) メチルエフェドリンや ( ② ) などのアドレナリン作動成分配合剤には、「糖尿病、( ③ ) 機能障害、心臓病、高血圧」の診断を受けた人について、「相談すること」に記載がある。
- (2) ベラドンナアルカロイド類、ロートエキス、ダツラエキス、( ④ ) などの抗コリン成分配合剤 (副交感神経遮断剤) には、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと (異常なまぶしさ等の症状があらわれることがある)」が「してはいけないこと」に、「排尿困難」の症状のある人、「( ⑤ )、緑内障」の診断を受けた人、「口のかわき、( ⑥ )、目のかすみ」の症状の持続又は増強が見られた場合について、「相談すること」に記載がある。
- (3) ( ⑦ ) などの第一世代の抗ヒスタミン成分配合剤には抗コリン作用があり、「排尿困難」の症状のある人、「緑内障」の診断を受けた人について、「相談すること」に記載がある。また、脳内に移行しやすく、脳内のヒスタミン受容体にも蓋をしてしまう。ヒスタミンは脳内において ( ⑧ ) に関与しているため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください (眠気があらわれることがあります。）」、「相談すること」に「口のかわき、眠気」の症状の持続又は増強が見られた場合について記載がある。

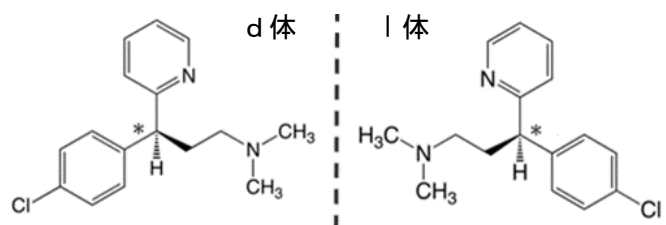
- A. ヨウ化イソプロパミド B. フェニレフリン C. チキジウム D. クロルフェニラミン E. コデイン  
F. 心臓病 G. 便秘 H. 甲状腺 I. 副甲状腺 J. 覚醒 K. 睡眠 L. 薬理学 M. 免疫学

## 問3.【鏡像異性体について】下欄から最適語を選びなさい

鏡像異性体とは、分子構造が鏡像関係になっている1対の物質で、「d-」と「l-」を付して区別されるが、「dl-」又は特に記載が無い場合は等量混合物のラセミ体である。

右下の表は、承認基準における ( ① ) の1日最大分量である。表の意味するところは、( ② ) ということである。

このように、鏡像異性体は人体に対する作用が異なり、( ③ ) は、主作用の無い鏡像異性体に催奇形性があり、大きな社会問題になった。



1日最大分量	ラセミ体	d体(左)
鼻炎用内服薬、鎮咳去痰薬、鎮暈薬	12 mg (4 mg)	6 mg (2 mg)
かぜ薬	7.5 mg	3.5 mg

鎮咳去痰薬、鎮暈薬の1回当りの最大分量が設定されており、( )で示した。

- A. クロルフェニラミン B. メチルエフェドリン C. セチリジン  
D. キノホルム E. サリドマイド F. l体はd体の作用を弱める  
G. l体には主作用が無い H. d体の作用はラセミ体の2倍強い